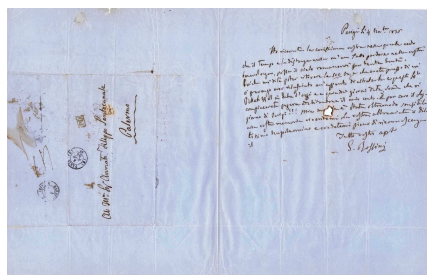
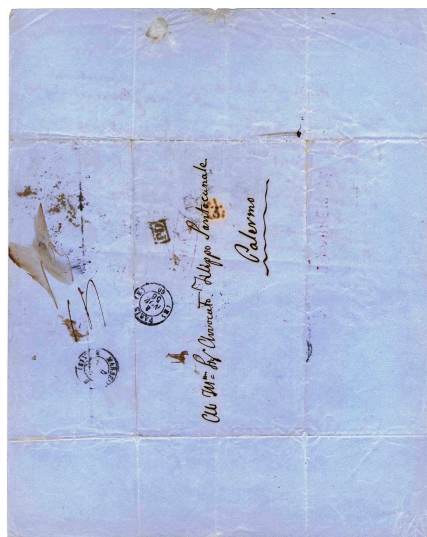


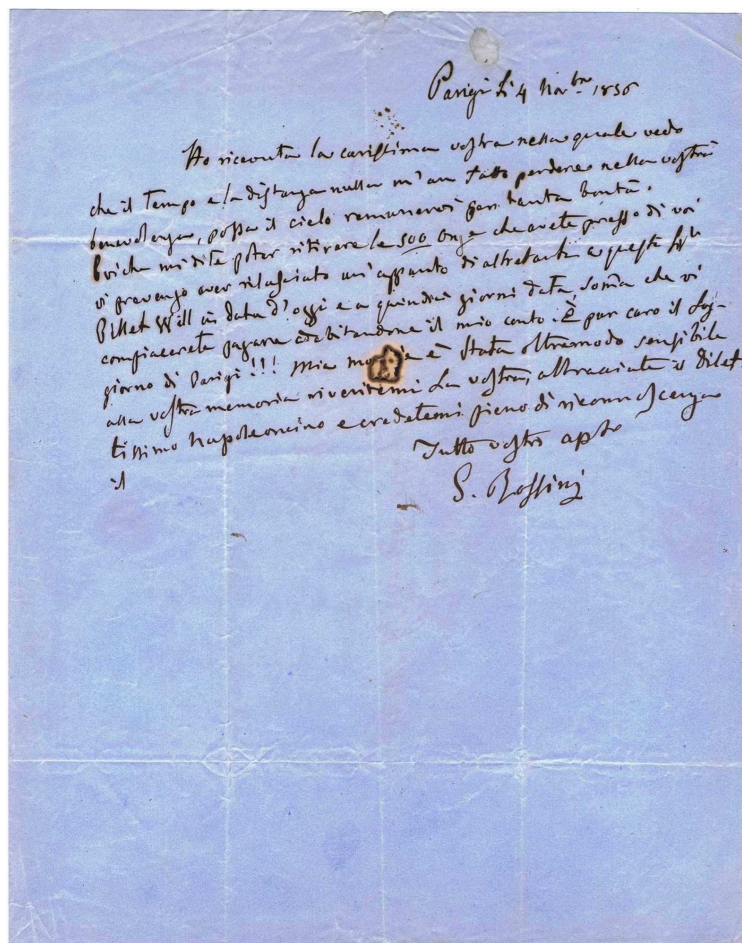
## ロッシーニの自筆書簡 1856年11月4日付

(水谷彰良コレクションより)

ロッシーニの自筆書簡 パレルモの弁護士フィリッポ・サントカナーレ宛、1856年11月4日付



左半分と全体



A Filippo Santocanale (Avvocato di Palermo), Lettera autografa firmata di Gioachino Rossini Parigi li 4 No. bre 1856.

[Collezione privata di Akira Mizutani - Tokyo]

### 解説

パリに移ったロッシーニは1856年6月にストラズブルを訪問して大歓迎を受け、続いてドイツのバート・ヴィルドバートで療養した。8月初旬にバート・キッシンゲンに移って療養、続いてバーデンの温泉めぐりをして10月6日にパリに戻った。ロッシーニは同月23日、ボローニャのエージェント、アンジェロ・ミニャーニ宛の手紙に、「私は絶えず自分の神経症と闘っていますが、ドイツで自分の中に何かを得たようです。どんな風に冬を過ごせるか様子を見ましょう!! パリ滞在は実に快適ですが、出費の多さは耐え難いほどです」と書いている。

その12日後の11月4日に書かれたこの手紙は、旧友のパレルモの弁護士フィリッポ・サントカナーレ (Filippo Santocanale, 1798-1884) からの手紙への返信で、あなたが求めた金額をピエ=ヴィル伯爵を通じて本日から15日以内に私の口座から支払うと記し、「パリ滞在は高くつきます!!!」と書き添えている。

青色の用紙を使い、サイズは42×26.5 cmと大きく、左の宛名にパリとマルセイユの消印が押されている。本文は下から3行目に焼け焦げがあるが、そこが「私の妻」の「妻 (moglie)」に当たるのは偶然としても面白い。

(2014年11月作成。水谷彰良)